

環境改善を推進する緑化種子及び商品紹介

雪印種苗(株) 北海道研究農場

入山 義久

1 はじめに

四季折々の花が咲き乱れ、見ているだけで心が和むフラワーガーデン。自分の家の窓から見える景色が、隣の家の壁や砂利の駐車場よりも花の咲き乱れる庭であるほうが人の心も優しくなります。

世間ではガーデニングがブームになっており、花屋さんの店先には、色とりどりの花壇苗、お洒落なプランターやバスケットなどが、所狭しと並べられています。プランターなどで、遠目に見て目立つように効果的に飾るためには、ボリュームいっぱい群植しなければならず、これでは、広い範囲を緑化するためにはコストがかかりすぎます。鉢植えやポット植えでは飾りきれない広い範囲の緑化には、種子の直播が適しています。そこで今回は、種子の直播きでお花畑が楽しめる「ミックスフラワー」の紹介と、その栽培方法の説明、そして現在試験中の北海道の在来野草について紹介したいと思います。



写真1 ファンタジー (9月撮影)

2 園芸種と在来種の違いについて

花屋さんや花壇などで、よく見かける草花は、ほとんどが園芸種です。園芸種は在来種に比べて、花を楽しめる期間が長く、花が大きく、花色も豊富で、鑑賞性が高くなるように改良が重ねられてきました。その栽培も簡単で、種を蒔けば美しい花を手軽に楽しむことができます。

しかし、一部の1年草などは、落ち種による翌年の発芽はあまり期待できず、種を蒔いても1~2年で、ほとんど無くなってしまふことが多く、永続性に欠けています。また逆に、条件が良い場所では生育が旺盛になり、雑草化してしまうこともあります。

一方在来種は、花色が単調であり、花を楽しめる期間が短いものが多く、決して豪華ではありません。しかし、春の七草、秋の七草のように、季節感を味わうことができ、株の永続性も優れています。一口に在来種と言ってもその種類は豊富で、高山植物などの貴重種と呼ばれる植物から、農村地帯によく見られる植物、空き地に生える雑草まで、たくさんの種類があります。在来種の種子の流通や販売は少なく、特に高山植物などの在来種は、その栽培を趣味にする人が増えているため、残念ながら国立公園や山間地での盗掘が後を絶ちません。

3 ミックスフラワーの紹介

ミックスフラワーは、種子によって手軽に栽培ができ、ある程度の痩せ地や粗放的な管理にも耐えて、比較的簡単に美しい花が鑑賞できる草花を選び、その種子を最適な割合でミックスしたもの

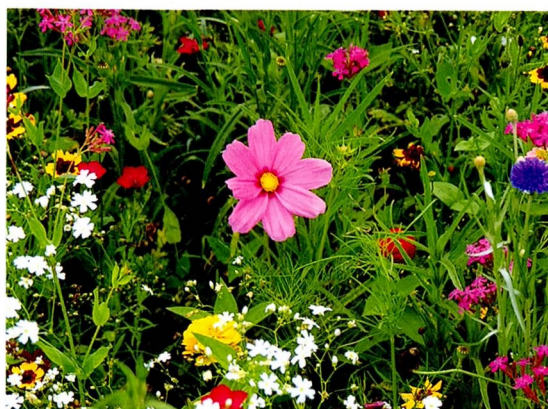


写真2 エレガンス (9月撮影)

です(写真1, 2)。ほとんどの草花は園芸種ですが、最近になって、栽培の容易な一部の在来種がミックスされるようになりました。ミックスフラワーは、一度播種を行うだけで、様々な花が同時に開花し、また季節ごとの草花の移り変わりを楽しむ事ができます。

ミックスフラワーに使用されている草花は数多くあり(表1)、緑化場所、管理頻度、地域の気候に応じて、使用する花の種類や播種時期などを決定します。特に、北海道や府県の高冷地など、花の生育期間が短くなってしまふ場所では、花の種類や播種時期は、ある程度限られてしまいます。弊社では、ミックスフラワーを「北海道向け」および「府県向け」に分け、それぞれの地域に適したミックスフラワーを商品化しました(表2, 3)。また、ミックスの内容を変更し、数多くの花の中から、好みに応じて独自のブレンドをすることもできます。

1) 造成方法

まず、播種予定地を耕します。雑草を取り除き、均一に整地を行います。この時に、雑草をできるだけ取り除くことが、順調に生育、開花させるた

表1 ミックスフラワーに使われている代表的な草種

分類	草 種 名
1 年 草 (2 年草)	ヤグルマソウ、ハルシャギク、ハナビシソウ、カスミソウ、ポピーシャーレ、ペチュニア、アリッサム、ルピナスブルーボネット、キバナルピナス、ムギナデシコ、セイヨウセキキチ、ジニアブリラピノキオ、ヒメキンギョソウ、サクラギソウ、フロックスドラモンデー、レッドエンジェル、コマチソウ、イエローカーベット、ルリカラクサ、コモンカラクサ、ビオラ、コスモスピッキー、ワスレナグサ、ツキミソウ、など
宿 根 草	シャスターデージー、ヒメナデシコ、ピジョンデシコ、ブルーエンジェル、ナツユキソウ、ロックピンク、ルドベキアワイルド、オオキンケイギク、オオテンジンギク、ローマンカモマイル、シュッコンカスミソウ、カワラナデシコ、エゾミソハギ、など

表2 北海道向けスノーミックスフラワー

商品名	開花期 (月)	播種期 (月)	草 丈 (cm)	使用草種
スノーレインボー	6~10	4~7	30~80	宿根草+1年草
レインボーカーベット	6~10	4~7	15~40	宿根草+1年草
カントリーロード	6~10	4~8	30~80	宿根草+1年草
エレガンス	6~10	4~6	40~80	1年草
ファンタジー	6~10	4~6	20~40	1年草
コスモスパーグラデーション	6~10	4~6	50~120	1年草

表3 府県向けスノーミックスフラワー

商品名	開花期 (月)	播種期 (月)	草 丈 (cm)	使用草種
トールタイプ	4~10	3~6・9~10	60~120	宿根草+1年草
ロータイプ	4~10	3~6・9~10	30~60	宿根草+1年草
ハイランドタイプ	4~10	3~6・9~10	40~70	宿根草+1年草
ポピュラータイプ	4~10	3~6・9~10	60~120	宿根草+1年草
カーベットタイプ	4~10	3~6・9~10	20~40	宿根草+1年草
春物語 エレガンス	4~6	9~10	40~80	1年草
春物語 ファンタジー	4~6	9~10	20~40	1年草
春物語 スタANDARD	4~6	9~10	40~80	1年草
夏物語 エレガンス	6~10	5~7	60~80	1年草
夏物語 ファンタジー	6~10	5~7	20~40	1年草
コスモス物語 (3タイプ)	6~10	5~7	60~140	1年草

めの重要なポイントになります。土の中にある雑草の種子を一度発芽させ、ラウンドアップなどの除草剤を全面散布すると効果的です。

肥沃な土の場合は、無肥料でも生育できますが、肥料分の少ない場所では、基肥として化成肥料を30~50 g/m²程度施肥します。

播種量は、基本的に1~2 g/m²です。種子量の10倍程度の乾いた土と良く混合して播種を行い、また、種子を幾つかに分けて、縦、横、斜めと数回に分けて播種すると、片寄りがなく均一に播種することができます。

播種が終わったら、軽く土をかけ、鎮圧を行います。覆土、鎮圧をしっかりと行わないと、種子が乾燥しやすくなり、発芽が揃わない場合がありますので、注意が必要です。

2) 管理方法

ミックスフラワーには、比較的簡単に栽培ができる草花を使用していますが、美しい花を咲かせるためには、最低限の雑草の防除が必要になります。雑草が花の初期生育を妨げてしまう場合は、発生初期に除草を行います。その後、ミックスフラワーの草花がある程度大きくなったら、草花より丈が高く、目立つ雑草のみを取り除きます。

また、管理のために人の通れる幅の通路と播種床を交互に作る「帯条播」で播種を行うと、後の除草作業を楽に行うことができます。

長期的に花を楽しむならば、除草の他に追肥や開花終了後の刈り払い、状況に応じた追播作業も必要になってきます。

4 在来野草の紹介

近年、自然環境の保護・保全が注目を集めています。山間部の道路の法面や砂防ダム周辺、河川や湖沼などの水辺の改修工事においては、従来の外来牧草（芝草）を使用した緑化では、自然環境を破壊してしまうため、これを見直して、現地に自生する野草を取り入れたいという声が盛んに聞こえてくるようになりました。

しかしながら、国内での在来野草の流通量は極めて少ないのが現状です。そこで、種子からの栽培が容易な在来野草を選抜することを目的とし、弊社では、1994年より水湿性植物を、1996年より在来野草をとりあげ、採取、栽培などの試験を行ってきました。

以下に、開花期間が長く、鑑賞価値が比較的高いと考えられる北海道在来野草について、幾つか紹介致します。ただし、紹介する北海道在来野草は、試験段階であり、種子の供給販売にはまだ至っておりません。

1) カワミドリ (写真3)

日当たりの良い土地にはえるシソ科の多年草。7月中旬から9月上旬に赤紫色の花を咲かせます。花卉が散った後も、花穂が紫色で美しく、鑑賞期間が長くなります。草丈は50~100 cm。ハーブの1種であり、全体に芳香があります。

2) エゾミソハギ (写真4)

山野の湿地などにはえるミソハギ科の多年草。

開花期間が長く、7月中旬から9月上旬に赤紫色の花を咲かせます。自生地が水辺であるため、やや排水の悪い湿った土壌でも良好に生育できます。草丈は60~120 cm。

3) ヨシ

日本各地の湿原や湖沼、河岸に生えるイネ科の多年生草本。8~10月に紫褐色の穂を付けます。群生してヨシ原を作り、岸辺の浸食を防ぐ役割を果たし、小鳥や水生生物の生息環境になります。

4) ガマ

湿原や湖沼、河岸に生えるガマ科の多年生草本。6~8月に長さ15~20 cmの円柱形の花穂を付け、後に赤褐色に変色します。穂の形がユニークなため、鑑賞価値の高い野草です。

5) オミナエシ (写真5)

日当たりの良い山野にはえるオミナエシ科の多年草。草丈は60~100 cm程度で、開花期間が長く、8月上旬~9月中旬に直径3~4 mmほどの黄色



写真3 カワミドリ (8月撮影)



写真4 エゾミソハギ (8月撮影)



写真5 オミナエシ (8月撮影)



写真7 エゾノコンギク (9月撮影)



写真6 オトコエシ (8月撮影)



写真8 エゾカワラナデシコ (8月撮影)

い花を密に咲かせます。秋の七草のひとつです。

6) オトコエシ (写真6)

日当たりの良い山野にはえるオミナエシ科の多年草。草丈、開花期間などは、オミナエシとほぼ同じですが、つる枝を伸ばして広がり、白色の花を咲かせます。

7) コハマギク

主に海岸の岩上に自生するキク科の多年草。草丈は低く15~30 cm程度で、葉は肉質、地下茎によって旺盛に広がります。開花時期は遅く、10月上旬~下旬に直径5 cmの白色の花を付けます。

8) エゾノコンギク (写真7)

山野に多いキク科の多年草。草丈は50~100 cm、8月中旬から10月上旬に直径2.5 cmほどの青紫色の花を多数付けます。ノコンギクは野菊の代表ですが各地に変種が自生しています。

9) エゾカワラナデシコ (写真8)

日当たりの良い草原や川原にはえるナデシコ科

の多年草。草丈は30~80 cm程度で、7月中旬から8月上旬に直径4~5 cm、花卉の縁が糸状に細かく裂けた桃色の花を付けます。

5 おわりに

今回は、ミックスフラワーと若干の北海道在来野草について、紹介いたしました。現在、野草は試験中ですが、質問等ございましたら弊社北海道研究農場までお問い合わせ下さい。

ミックスフラワー以外にも、たくさんの緑化用種子が販売されており、環境美化に利用することができます。まずは庭の片隅にでも、花を育ててみませんか。